eJOURNAL USA | U.S. DEPARTMENT OF STATE

EJ USA

2 英語あれやこれや
4 7月4日
13 旅先で「すべきこととしてはいけないこと」
26 DNA：遺伝子の奏でる音楽

ぜひ行きたいアメリカ
Destination America

アメリカンセンターJapan／アメリカンセンター・レファレンス資料室

©Rafael Suanes

新しくなった『eJournal USA』!

『eJournal USA』の本号は装いと構成を新たにしています。より斬新になった本号のデザインでは、写真と目に鮮やかなインフォグラフィックが強調されています。本号は詳しく掘り下げた特集記事のほか、科学、ビジネス、文化などの話題を扱った通常の記事も掲載しています。

本号ではデザイナーと執筆者、編集者が1つのチームとして協力し、専門家と相談しながら新鮮な話題について精力的に取材しました。

元ニュースライターのマッケンジー・バブは、自分の記事が斬新な構成で掲載されることに興奮しています。バブは新しい仕事をこなすなかで、自分が「かつてマッケンジーと呼ばれたライター」のような気がすると述べています(彼女はプリンスではないが、ロックスターだと思います)。テリー・クレイマー元大使(「最後の一言」参照)の写真撮影を手配したデザイナーのローレン・ラッセルは、コーヒーを飲みながら元大使と政治について楽しく語り合いました。編集者のマーク・トレイナーは、まもなく自分が記事として書いた1つのことを実際に経験することになります。「大規模公開オンラインコース(MOOC)」について調べていたマークは、「MOOCのギター入門」にひかれて受講を申し込みました。マークはこれだけでは終わらないと思います。シニア・デザイナーのドリー・ウォーカーは本号がデザインを一新する機会を利用して、グラフィック・デザインの動向を探ってきました。クラウドファンディング(オンライン資金調達)の記事で使われているドリーのゲーム盤イラストは、読者の皆さんのお気に召すと思います。

私は、特集記事「ぜひ行きたいアメリカ」でライターの皆さんと仕事をするうちに、ワシントンにやって来る友人を自分がどのようにもてなしているか思い出しました。私の「エクストリーム・ツアー」は午前4時30分のモーニングコールで始まります。ポトマック川で私と一緒にボートを漕ぐトレーニングをするのです。それから、もっと普通の「博物館と史跡をめぐるツアー」にも友人を誘っています。

読者の皆さんが、スポーツをするのか、あるいは博物館めぐりをするのか、どちらのタイプの旅行者であれ、本号では、ワシントンから遠く離れた土地へ皆さんを連れ出して、あまり知られていない場所を探訪してもらうのがコンセプトだということは理解していただけるでしょう。西部の自然の中でクリフジャンプするという冒険もあれば、音楽あふれるテキサス州オースティンや、新しがり屋の多いブルックリン界隈についても書いてあります。このほか、歴史的に有名な「国道66号線(ルート66)」の沿線に見られる生粋の米国についても紹介しています。

編集長 エリザベス・ケルハー(上の写真、最前列)

EJ|USA
eJournal USA

IIP Coordinator Dawn L. McCall
Executive Editor Nicholas S. Namba
Director of Written Content Michael Jay Friedman

Cover Illustration Marcos Carvalho
Back Cover Photo ©Buero Monaco/Corbis

Editorial Staff
Managing Editor Elizabeth Kelleher
Production Manager Michelle Farrell
Editor Andrzej Zwaniecki
Editor MacKenzie Babb
Editor Lauren Monsen
Editor Mark Trainer
Publications Editor Sonya Weakley
Senior Designer Dori Walker
Designers Lauren Russell, Lisa Jusino

Contributing Writers
Michael Gallant, Terry Kramer, Jane L. Levere, Susan Milligan, Tim Neville, Sohaib Sultan

発行者より

米国国務省の国際情報プログラム局は、『eJournal USA』のロゴ名で電子ジャーナルを発行し、米国や国際社会が直面する主要な問題を検証し、米国の社会や価値観、考え方、制度について世界の読者に情報を提供しています。

ジャーナルは毎号、英語で印刷版と電子版が発行されています。アラビア語、中国語、フランス語、ペルシア語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語など、英語以外の言語で翻訳版が発行される場合もあります。ジャーナルはそれぞれ、発行巻数と号数別に目録に掲載されます。

ジャーナルの中で提示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。米国国務省は、ジャーナルがリンクするインターネット・サイトの内容、およびこれらのサイトへの継続的な利用の可能性について、一切の責任を負いません。各サイトについての責任は、サイトの発行者のみに帰属するものとします。ジャーナルに掲載される記事や写真、イラストは、著作権についての明記がない限り、米国外での複製や翻訳を認めますが、明記があるものについては、ジャーナルに記載されている著作権保有者の許可を得なければなりません。

ジャーナルに関するご意見等は、米国大使館、アメリカンセンター Japan、および各地のアメリカンセンター・レファレンス資料室、または下記の編集部までお寄せください。

Editor EJUSA
IIP/CD/WC
U.S. Department of State
2200 C Street, NW
Washington, DC 20522-0501 USA
email: eJournalUSA@state.gov

編集・発行:アメリカンセンター Japan
(2015年2月)
本号の日本語文書は参考のための仮翻訳であり、正文は英文です。

U.S. DEPARTMENT OF STATE | JULY 2013 | VOL. 18 | NO. 01 EJUSA.STATE.GOV/ENGLISH/PUBLICATION

EJ USA

DESTINATION AMERICA: Surprising Cities, Sights and Sounds

ぜひ行きたいアメリカ
驚きの都市・風景・音楽

©JOHN KLICKER/AP IMAGES

特集

8 ぜひ行きたいアメリカ
アドベンチャー・スポーツ、オースティンの音楽、ブルックリン、ルート66

目次

2 英語あれやこれや

3 短信

レジャー
4 7月4日

コミュニティー
18 ラマダン

平和と安全
20 平和の種をまく

教育
22 外で学ぶ米国の若者たち
24 大規模公開オンラインコース（MOOCs）

アート
26 DNA：聞く、見る、読む

科学
28 ロボット

市場
30 クラウドファンディング

最後の一言
32 テリー・クレイマー

33 点を結ぶ

英語あれやこれや
本号で使われている大事な単語

Affluent | 金持ちで、高価な物をたくさん所有していること　p.19

Aficionado | たいていは好きな趣味や活動を熱心に追求し、そうした趣味や活動について知識があり、その良さを分かっている人　p.16a

Artificial Intelligence | コンピューターサイエンスの1分野で、人間の知能のような能力を機械に与えることを研究する　p.24

Authentic | 本当の、偽りのない、複製や偽物ではない　p.14

Beaten path | 大勢の人が通って平らに踏みならされた道　p.13

Blow-out | パーティーあるいは祝典　p.4

Bob | 急に素早く上下に動くこと　p.11

Borough | 村や町、あるいは大都市の一部などで、独自の政府機関を持つもの。ニューヨーク州の主要5行政区の1つ　p.14

Chip on one's shoulder(口語) | 以前に不当な扱いを受けたという思いから、怒りや不愉快な態度を表したりそのように振る舞ったりすること　p.29

Chops | 音楽演奏の高度な技術　p.13

Computer-adaptive learning | 学習者の能力水準に合わせて問題が出される、コンピューターによる試験　p.25

Emigrate | 国または地域を離れて他の場所に住むこと　p.7

Equity | 企業の財産または普通株における、損失可能性の持ち分または所有権　p.31

Full-on | まったく制限されない、十分に発達した　p.14

Get one's kicks (from someone or something) | （人やものから）喜びを得ること、楽しむこと　p.16a

Gig | 仕事。通常は一定期間の仕事で、特に芸能人の雇用契約をいう　p.13

Gossiping | 他人の私生活について話すこと　p.28

Grip(per) | ものをつかむための部品または道具　p.29

Innovative | 新しいアイディアや方法を導入したり使ったりする　p.19

Persona | 相手に対する振る舞いや話し方などで、それにより、その人がどのような種類の人間なのか相手は理解する。相手に対して示されるその人のイメージや人柄　p.28

Pitch | 強引なやり方で何かを提示したり宣伝したりすること　p.30

Pyrotechnics | 花火の華やかな打ち上げ　p.4

Rural | 都会ではない田舎の、田舎に住む人々の、あるいは田舎や田舎に住む人々に関連する　p.21

Serene | 穏やかで平和な　p.21

Slickrock | 風化して表面がつるつるした岩　p.10

Telecommunications | ケーブル、電話または放送を用いて、離れた場所から意思疎通すること　p.32

Tepee | 通常は動物の皮でできた円錐形のテントで、特にグレートプレーンズのアメリカ先住民が使用するもの　p.17

Thrifting | リサイクルショップで中古の衣服を買うこと　p.7

Unsolicited | 頼んでいない。要求していないのに与えられたり届けられたりする　p.32

Versatile | さまざまなテーマや分野、技能に及んでいる。また、1つのことから別のことへ容易に転じる　p.29

Vintage | 古くて価値が認められており、永続的に関心や重要性、品質を維持しているもの、あるいは、過去の時代のものについていう　p.18

『eJournal USA』の「英語あれやこれや(All About English)」で使用されている英語の定義は、すべて
© Merriam-Webster Learner's English Dictionary (http://www.learnersdictionary.com)による。

americanenglish.state.gov

Improve your English and learn about American culture at this all-American website!

このアメリカの情報満載のウェブサイトで英語力を高め、米国文化について学ぼう！

A free online resource for learners of English as a foreign language, for students of all levels.

英語を外国語として学ぶ学習者、あらゆるレベルの学生のための無料オンライン情報源

米国務省教育文化局が提供するサービス

©SHARPNER/SHUTTERSTOCK.COM

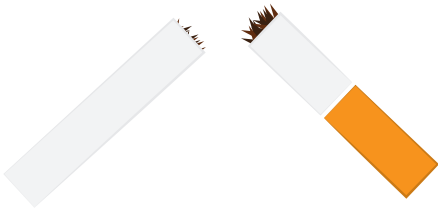
米国事情あれこれ

（ほとんど）何でもバーベキューにする米国人

米国人は肉や野菜をグリルするのが大好きで、果物をグリルする人も増えている。

「暖炉・パティオ・バーベキュー協会」によると、米国では約82%の世帯がグリルか燻製器を持っており、その97%が普段からそれを使っている。食材をグリルするのは「スポーツ」にさえなっていて、数百もの競技会が行われる、米国料理と米国文化の象徴である「バーベキュー」は最大限に活用されているのである。

ニューオーリンズ中心に活動する作家ロリス・エリック・エリーは、その著書『Smokestack Lightning : Adventures in the Heart of Barbecue Country』（「煙突の稲妻：バーベキューの国の真ん中での冒険」）の中でしみじみとこう述べている。「バーベキューだけは分け隔てがない。上品な人も下品な人も、聖職者も俗人も、都会の住民も田舎者も、学のある者もない者も、肌の色が黒でも褐色でも、黄色でも赤でも白でも、バーベキューは誰もが楽しむものだ」さあ、グリルに火を付けよう。

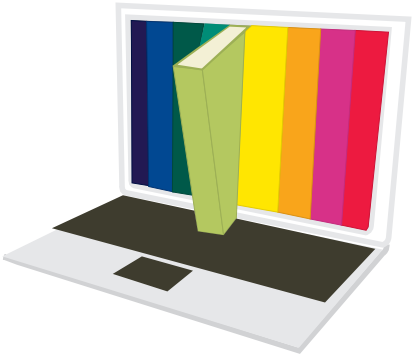


ある普遍的な傾向

国全体の流れを受けて、米国の大学やカレッジでも喫煙を禁止するところが増えている。

最近の調査によれば、米国では1,000以上のキャンパスが完全に、つまり屋内屋外ともに禁煙になっている。こうした変化は短い間に起こった。「全米非喫煙者の権利協会」によれば、完全禁煙の大学は2007年には60校に満たなかったと言う。

このように短期間で大学での禁煙が広まった理由は、学生の健康管理にあたる専門家の団体が2009年に出した喫煙反対声明に応えて一部の大学が行動を起こしたからである。しかし、米国では都市や州が率先して禁煙法を実施したおかげで社会通念が変わり、非喫煙者が今や人口の過半数を占めている。大学は、構内を禁煙にすることで、非喫煙者の数がさらに増えることを願っている。



新世代の図書館

かつて、米国人は本を借りるために図書館へ行った。しかし米国の世論調査機関ピュー・リサーチ・センターの調査によると、最近の図書館利用者は、コンピューターやインターネットの利用と印刷資料の利用をほぼ同じように評価している。図書館のインターネット利用者のうち、66%は学校や仕事の調べ物をするため、35%がソーシャル・メディアを使うため、16%がオンライン授業を受けるために利用していた。

米国人は今でも本を求めているが、本をもっと容易に手にすることができる技術が利用できればと思っている。上述の調査によると、図書館利用者が望んでいるのは、オンラインで司書へのアクセスが可能になること、図書に関する自動情報提供ブースが近所に設置されることだ。また、昔ながらの分類法で番号付された図書を探し出すのに役立つ技術も求められている。特に、利用者が望んでいるのは、図書館の蔵書の中から必要な資料を簡単に探し出すことのできるGPS機能がついた装置だ。

コカ・コーラはオーケー

今もアトランタ本社のどこかで「秘密のレシピ」を大事に守っているコカ・コーラ社によると、同社の大規模な国際マーケティング組織は、「コカ・コーラ」というブランド名を「オーケー（OK）」に次いで世界で2番目に良く通じる言葉にまで育て上げたという。同社はこの謎めいた配合成分を生産して世界各地に900カ所以上ある瓶詰工場へ送り、そこで販売会社により水と甘味料が加えられる。コカ・コーラのファンの中には、瓶詰めされる工場によって味が違うのが分かるという人もいる。だが、会社幹部はブランドに忠実で、コカ・コーラはどこでも同じ味だと主張している。

ILLUSTRATIONS: LAUREN RUSSELL

米国各地の独立記念日

マーク・トレイナー

7月4日は、他の何にもまして、米国の誕生を祝う日である。1776年に、13の英国植民地が独立宣言を採択し、アメリカ合衆国が誕生した日を米国民は祝う。

誕生日のパーティーは、友人同士の小さな集まりから、騒々しい豪華版のパーティーまで、形式も規模もさまざまであるが、これと同じく、7月4日の祝典もごく小規模のものから非常に大がかりなものまで、あらゆる規模のお祝いが米国各地で行われている。この日に米国を訪れれば、どこへ行こうとパレードに出くわすだろう。アイオワ州の小さな町なら、パレードのメインは町の消防車や、ひらひらなびくリボンで飾った自転車に乗っている子どもたち程度だろう。サンフランシスコに近いカリフォルニア州アラメダ市へ行けば、3マイルも続く沿道に集まった2万人の観衆の1人として、音楽隊や騎馬隊や巨大な山車が行進する大規模なパレードに歓声をあげることになる。

この写真は、アラスカ州南部にある人口30万の小さな都市、アンカレッジである。この町の7月4日は、町の真ん中にあるデラニー・パーク・ストリップで食べるパンケーキの朝食から始まる。「いろいろな催し物や食べ物のブースがあります」と長年アンカレッジに住むポーラ・コンルーは言う。「みんな公園をぶらついてから、パレードを見物します。消防車やクラシックカー、楽隊がパレードします」

しかし、アンカレッジははるか北に位置しているため、花火が始まる時間はずっと遅くなる。「花火は真夜中に始まりますが、それでも外は真っ暗ではありません」とコンルーは言う。

アンカレッジから3,300マイル離れたニューヨークでは、暗くなるのがもっと早い。そこでは、ハドソン川の上空1マイル半にわたり22トンの花火が打ち上げられ、800万人のニューヨーク市民が見物する。全米最大規模の花火大会である。

しかし、花火の明るい光と愛国的な音楽にばかり気を取られてはいけない。パイ焼き大会が開催され、線香花火を楽しむ中西部の田舎町の広場であれ、オーケストラと大砲が付き物のボストン港であれ、7月4日の祝典では、米国民としてのアイデンティティーに対する自負心と、規模を問わず地域社会によって、同じ米国民でも違いが出てくるという意識が感じられる。

©JR Ancheta, The Anchorage Daily News/AP Images

ニューヨーク、ハドソン川の上に上がる花火。花火の前面には、建国記念日を祝して赤、白、青の明かりが点灯するエンパイアステート・ビルが見える

©Kathy Kmonicek/AP Images

「自分の宣誓式が
7月4日に行われるという
通知をもらった時、
『あのドレスを着て行くわ』と
口にしていました」

クリスリー・ネルソン

©Joshua Yospyn

星条旗と水玉模様

クリスリー・ネルソン（上）は2004年、13歳でジャマイカから米国へ移住してきた。そして、ジョージ・ワシントンの旧居と墓があるマウント・バーノンで行われた宣誓式で米国人となった。2012年7月4日のことである。この写真について何を一番覚えているかネルソンに聞いてみた。

「7月4日だったので、本当に特別な日、特別な式典になりました。すごく暑い日だったと思います。以前に、大勢の人が星条旗の横で写真を撮っているのを見たことがあります。宣誓式の日、私は両親にからかわれました。星条旗と着る物を合わせていたのは私だけだったからです。私はすごく『リサイクル・ショッピング』にはまっているのですが、偶然このドレスを見つけた後で、宣誓式のことが分かったのです。自分の宣誓式が7月4日に行われるという通知をもらった時、『あのドレスを着て行くわ』と口にしていました」ーM.T.

特集

ぜひ行きたいアメリカ
驚きの都市・風景・音楽

ロッククライマーのほうがカウボーイより数が多い西部や、
食料品店で生演奏が流れる音楽のあふれる町、
新しがり屋の多いブルックリン界隈を訪れたり、
有名な幹線道路のちょっと変わった
魅力を味わったりしよう。

ADAPTED FROM ©MIMONI/SHUTTERSTOCK.COM

米国のアドベンチャー・スポーツ　さあ、飛ぶぞ

ティム・ネビル

ユタ州モアブの断崖ジャンプでは、インストラクターと一緒に跳ぶことにより、学生はさらに安全になる

© Chris Hunter

「なんて怖いの！」と1人の女性が、昨年のある夏の日、叫び声をあげた。女性は、カリフォルニア州ヨセミテ国立公園で、高さ600メートルの断崖の端から足元を覗き込んでいた。下のほうでは、26歳のプロのロッククライマー、アレックス・ホノルドが1人で指先ほどの大きさしかない場所に手足を掛けながら、切り立った絶壁をゆっくりと登っていた。ぞっとする光景だった。「彼はロープを付けていないのよ！」と女性は叫んでいた。「落ちたら死んじゃうわ！」

そのとおりだが、ホノルドは落ちなかった。頂上にたどり着き、クッキーを食べ、何が面白くてこんなことをする人間がいるのかと驚いて見ている人たちの質問に答えていた。「最高に素晴らしい場所に行けるからさ」ホノルドは肩をすくめた。「楽しいよ」

ホノルドはここ数年に米国が生み出した「エクストリーム・アスリート」の中でも最も過激な部類に入るかもしれない。しかし、彼の言うとおりだ。ちゃんと用心すれば、アドベンチャー・スポーツはどんな旅行者でも普通のガイドブックには載っていない素晴らしい場所へ連れて行ってくれるし、その旅はとても楽しいものになる。

エクストリーム・スポーツの本場

米国には連邦政府の所有する公有地が約2億6,500万ヘクタールある。これはフランスの面積の4倍以上だ。切り立つ山々、流れの激しい川、神秘的な雰囲気の森など、冒険の場所には事欠かない。米国ではアウトドアを目指す人がますます増えている。2011年には、米国の人口の半分近く、過去最高の1億4,100万人が何らかの形でアウトドア・アドベンチャーを楽しんだ。

ユタ州モアブは、昔は鉱業を中心にしたコロラド川沿いの開拓地だったが、今はアウトドア・スポーツ人気のおかげでブームに沸いている。モアブでは、赤くそびえ立つ岩山が自然の力で削られて、青空高く突き刺さる驚くべき姿の岩柱に変身した。人々はここへやって来て、標準ルートでキャッスルトン・タワーのような岩峰をよじ登ったり、風化して「つるつる岩」になった砂岩の上をマウンテンバイクで疾走したりする。この地域は、パラシュートを付けて崖から飛び降りる「ベース・ジャンプ」を習うのにもうってつけの場所である。「歩ける人なら、崖からジャンプできます」とモアブ・ベース・アドベンチャーズ社のマリオ・リチャードは言う。リチャードは自らを生徒の体に括り付けてタンデム・ジャンプする。ジャンプのクライマックスは谷底までの長い飛行だ。「空からの眺めはいつ見ても息を飲むほど美しいです。でも、見ているだけではありません。自分もその一部になっているのです」とリチャードは言う。

モンタナ州ボーズマンやカリフォルニア州スコーバレーのような所では、また別の形で自然と言葉を交わすことができる。とりわけ、山々に12メートルもの雪が積もる冬場はそうだ。町を囲む山岳地域では、歩いたりスノーモービルに乗ったりして尾根の頂上を目指しているスキーヤーが目に入る。彼らは頂上に着くと、頭上にパラグライダーの翼を広げて、スキーで山肌を滑降する。「スピード・ライディング」と言われるこのスポーツは、数年前にフランスから米国に入って来た。スピード・ライディングでは、スキーヤーは崖から飛び立ち、雪の上に着地しても、まだ滑降を続けることができる。今のところ、米国にはこのスポーツを許可しているスキー・リゾートはない。ただし、ユタ州パークシティにあるキャニオンズ・スキー場では、スキーヤーは頂上までリフトに乗り、歩いてゲレンデの外へ出て、スピード・ライディングで麓へ戻ってくることができる。近くのソルトレイクシティにある「クラウド・ナイン・トイズ」ではパラグライダーで飛ぶ方法を教えている。

穏やかな夏の日に管理された環境で水中を跳ね回るほうが好きだという向きには、ノースカロライナ州シャーロットがお勧めだ。そこにある「ナショナル・ホワイトウォーター・センター」は3,700万ドルをかけて建設された施設で、全長1,140メートルの流れの所々に急流や滝が設けられている。すべてが人工だ。ガイド・ツアーで急流のいかだ下りをするのもよいだろう。あるいは、マウンテンバイクやハイキング用の32キロの道を自分で探検してもよい。世界最長の部類に入るクライミング・ウォールでは、クライマーは自分のガッツが試される。

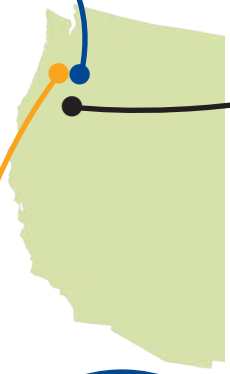
「大勢の人がこの場所のことを知っていますが、その素晴らしさを分かっていないと思います」。ある夏の日、流れの中を上下しながら進むカヤックを見ていた女性はこう言った。「私はカヤックに乗らないけれど、楽しそうに見えませんか？」

実際、カヤックは楽しかった。それに、パラグライダーよりずっと怖くなかった。

ちゃんと用心すれば、アドベンチャー・スポーツはどんな旅行者でも普通のガイドブックには載っていない素晴らしい場所へ連れて行ってくれる。

オレゴン州 ベンド

コロンビア川渓谷から車で3時間半、西部で最も美しい自然景観の1つ



オレゴン州ポートランドから車で3時間半、活発な音楽シーンあふれる自転車に優しい町

米国の西部では、どの町もおしなべてこんな推移をたどってきた。19世紀、入植者により林業と鉱業を中心に町が形成されるが、経済が破綻し、町は何年、いや何十年にもわたって苦境にあえぐ。しかし、ようやくアウトドア・スポーツの拠点として再生する。こんな町に名を連ねるのは、ユタ州パークシティ、コロラド州ボールダー、ワイオミング州ジャクソンなどだ。これらの町は、今では俗に言うところの「新西部」の一角を占めている。同じ西部でも、カウボーイをロッククライマーに置き換えた開拓時代の西部を想像するといいだろう。

オレゴン州のある町は、1年を通していくつものアウトドア・スポーツを楽しめるため、この「新西部」というイメージで町おこしをすることに成功した。その町ベンドは人口8万人程度、シアトルから南に6時間ほど車を走らせた、カスケード山脈の東側に位置している。凍てつく火山の頂からは、噴火で流れ出した噴出物が、乾燥した高原気候のベンドへ続く地層を形成している。この町ではバチェラー火山の頂上2,764メートルからスキーで下降したり、デシュート川でマスのフライフィッシングをしたりできる。数百キロメートルに及ぶマウンテンバイク用の道が森を走り、山間に点在する湖の冷たい湖面をカヤックが行きかう。ベンドは米国のビール生産の中心地にもなっていて、地ビールの醸造所は十数カ所以上を数える。座席が12もある自転車もあり、これで友人たちとパブを行き来することができる。

しかし残念ながら、これは21歳以上限定のお楽しみである。

Top to bottom: ©Riguccci/Shutterstock.com; ©Jesse Millan

ぜひ行きたいアメリカ

オースティン　音楽が限りなく続く町

マイケル・ガラント、ジェーン・L・ルベル

テキサス州オースティンに来ているなら、楽しい時を過ごすために覚えておくことが1つある。自分の耳を頼りに進むことだ。

オースティンは至る所にライブ音楽があふれている。空港ターミナルから食料雑貨店、果ては市議会の議場に至るまで音楽でいっぱいだ。もちろん、クラブや喫茶店、コンサート・ホールは言うに及ばない。この町は、かの有名なテレビ番組で毎年開催される音楽祭にもなっている「オースティン・シティ・リミッツ」が収録される町であり、大人気の祭典「サウス・バイ・サウスウェスト」が開催される地でもある。

6番街に足を踏み入れるだけで、この音楽あふれる街の真髄を理解できる。「6番街は音楽だけにささげられた通りです」とオースティンに住むフランシス・プレーブは言う。彼は、電子音楽、つまり激しいドラムビートとシンセサイザーを使いコンピューターで作るダンスフロア・ミュージックを作っている。プレーブによると、6番街は「10ブロックの中にバーやクラブだけがぎっしり軒を連ね、バンドが演奏している。ニューオーリンズのバーボン・ストリートみたいだけれど、オースティンの真骨頂は生演奏にあります。毎晩演奏されているのです」

しばしば「世界のライブ音楽の中心」と言われ、音楽発信の中心として6番街を擁するオースティンには、音楽を楽しめる場所が200カ所近くある。

レトロ音楽やルーツ・ミュージックが好きなら、行くべき場所は「コンチネンタル・クラブ」だが、ブルース・ファンは「アントンズ」が大好きだ。カントリー・ミュージックは、歴史的にテネシー州ナッシュビルが中心となってきたジャンルだが、現在は「ブロークン・スポーク」で脚光を浴びている。このダンス・ホールでは歌が物語を語り、そのバックに流れるのはアコースティック・ギター、バイオリン、バンジョー、ベース、あるいはアンプで増幅されたロックンロールのサウンドである。

若い地元のバンドばかりが演奏しているのはスパイダー・ハウスの「トゥエンティーナインス・ストリート・ボールルーム」である。カクタス・カフェではアコースティック音楽が演奏されている。インディーズ音楽というのがあるが、この「インディー」という名称は、音楽のスタイルではなく、音楽が録音される方法のことをいっている。大手音楽会社とは関係なく音楽を作っているという意味だ。インディーズ音楽は、ロックや電子音楽、ブルースなどを生かして新しい音楽を作るミュージシャンに愛好されている。オースティンはこれまで人気あるインディーズ・アーティストを数多く輩出してきた。スプーン、アンド・ユー・ウィル・ノウ・アス・バイ・ザ・トレイル・オ

©Ann Larie Valentine/Flickr.com

SXSW音楽祭でスウィング・ジャズとヒップホップを融合した音楽を演奏する、スウェーデンのグループ「モービッツ!」

©POPCIC/SHUTTERSTOCK.COM

ブ・デッド、オッカービル・リバー、アルファ・レブ、ザ・ブラック・アングル、デイビッド・ガルザ、ジャド・フェアーなど、挙げれば数限りない。

「エレファント・ルーム」は素晴らしいジャズ・クラブである。ブルースとジャズが演奏されるのは歴史ある「ビクトリー・グリル」、かつてビリー・ホリディからジャニス・ジョプリンまで多くのミュージシャンがステージに立ったところである。音楽を買って帰りたいなら、全米最後の総合レコード店の1つ、「ウォータールー・レコード・アンド・ビデオ」に立ち寄るとよい。

訪れるべき場所はまだ他にたくさんある。

「オースティンの多彩な音楽シーンは、もともとこの町に非常にたくさん音楽が流れていることから始まっているわけですから、どれか1つのジャンルに絞ることはできません」とプレーブは言う。いつの夜も、近くにあるテキサス大学のキャンパスから学生が6番街に繰り出して、ダンスフロアを埋め尽くすか、自分たちの音楽を演奏している。「学生がとても多いため、インディーズ・シーンが非常に盛り上がっています」とプレーブは続ける。「多くの学生バンドがクラブで演奏し、演奏技術を磨いていますが、同時に、ずっとパブのバンドで演奏してきたベテランのプロの演奏も聴けるのです」

フェスティバルの影響

レイチェル・セージはニューヨークを拠点に活動するレコーディング・アーティストで、「エムプレス・レコード」の設立者でもある。彼女にとって今年は、オースティンで毎年3月に開催される大規模な音楽の祭典「サウス・バイ・サウスウェスト(SXSW)」に初めて参加してから7年目にあたっていた。セージはSXSWを「あらゆる祭典の中で最も多様性に富んでいて、最高に興奮する音楽の祭典」だと言う。期間中、セージのようなアーティスト数千人が6番街のあちこちで演奏し、オースティンは音楽カーニバルのような雰囲気になる。

「オースティンはまるで音楽を食べて、眠り、音楽を吸って生きているようでな町です」とセージは言う。「でも、カントリー・ミュージックがクラブシーンの中心を占めるナッシュビルとは違い、オースティンは本当に何でもありの、冒険的な町です。要するに、『良いものは良い。良いものは尊敬される』ということです」

SXSWでは、音楽のほかに映画やインターネット技術の会議も開催される。「さまざまなあらゆる形態のメディアが互いに影響を及ぼし合っています」とプレーブは言う。プレーブは電子音楽をつくるほか、「アカデミック・レコード」という会社を経営し、オースティン・コミュニティー・カレッジで教鞭もとっている。プレーブのように創造性豊かな人間にとって、SXSWは新しいアイディアを相互に結び付けたり思い付いたりするチャンスになるが、それだけではなく、SXSWのおかげでオースティンが1年を通じて活気ある町になっていることが大切だとプレーブは考えている。

「オースティンはとどまるところを知りません」とプレーブは言う。

米国旅行で「すべきこと」と「してはいけないこと」

米国を旅行するためのアドバイス

すべきこと

- 航空券は事前に購入し、節約のため搭乗日は変更できるようにしておこう。
- 旅行プランを楽に立てたり友達をつくったりするには、団体旅行に参加しよう。
- 他の人がよく行く場所は避けよう。あまり知られていない場所が本当の米国である。
- 接客係やタクシー運転手にはチップを渡すのが習慣である。
- バスを利用しよう。短距離の移動では、バスの割引サービスがよくできている。
- 地元の人に話しかけよう。食べ物や音楽、風景など一番のものを教えてくれる。

してはいけないこと

- 知り合ったばかりの人にキスしてはいけない。米国ではにっこり笑って握手するものだ。
- 不用意に力バンを置いたままにしてはいけない。
- 音をたてて麺類を食べてはいけない。

SOURCES: STA TRAVEL, NYC AND CO., AMERICAN AUTOMOBILE ASSOCIATION, AND EJ|USA.

ダイジェスト版ブルックリン　食べる、遊ぶ、買う

ジェーン・L・ルベル

本物のニューヨークへ行きたい？

それならマンハッタンは忘れよう。今やブルックリンこそ本物のニューヨークだ。

ニューヨーク市に5つある行政区の1つであるブルックリン。そのブルックリンが「マンハッタンをニューヨークの周辺区と同じ地位に追いやろうとしている」と言うのは、ブルックリン区長マーティー・マーコウィッツの広報官を務めるマーク・ザストビッチ、である。ニューヨークで使われる言葉で「周辺区の地位」と言われるのは絶対にうれしくないことである。

ザストビッチの見方には明らかに偏見があるが、彼がブルックリンを「本物」と主張するのは十分な根拠があってのことである。地ビールの醸造所や町のボーリング場、地元産食材を使うレストランがそれだ。ブルックリンにはハード・ロック・カフェのようなチェーン店は氾濫していない、とザストビッチは指摘する。

ブルックリンを目いっぱい味わうためには、特に気候が温暖な時期であれば、マンハッタン南部とブルックリンのダンボ地区を結んでいるブルックリン橋を歩いて渡ろう。ダンボという名前は「Down Under the Manhattan Bridge Overpass（「マンハッタン橋の下」の意味）」の頭文字をとったものである。

ブルックリン橋は、開通した1883年当時、世界最長の吊り橋で、イーストリバーに初めて掛けられた橋だった。ブルックリン橋は技術的な快挙であっただけでなく、芸術作品を生み出す源にもなった。橋を偶像的に描いたジョゼフ・ステラの絵画や、ハート・クレインの詩などである。ブルックリン橋は「現代世界の8つの奇跡」の1つと考えられると言うのは、旅行ガイドブック『ロンリー・プラネット』の米国トラベル・エディターを務めるロバート・リードであるが、橋からはいまも変わらず、マンハッタンの高層ビル街のシルエットや自由の女神といった名所など、見事な眺めを楽しむことができる。

ダンボ地区とブルックリン・ブリッジ・パークへ足を進めよう。この公園はブルックリン橋とマンハッタン橋の間にある緑地で（マンハッタン橋もイーストリバーに掛かっている）、1920年代の回転木馬が修復して置かれている。ここでは、「アーモンダイン・ベーカリー」や「ジャック・トーレス・チョコレート」で軽食を楽しむとよい。あるいは、近くのアート・ギャラリーをのぞいたり、「パワーハウス・ブックス」書店で美術書を手にとって見るのもよいだろう。

次は、イーストリバー・フェリーに乗って、いま注目を集めているウィリアムズバーグへ行こう。ここはニューヨーク5区の中で最もおしゃれだと多くの人が思っている地域だ。急成長を遂げているアートシーンのほかにも見所はいろいろある。「ナイトホーク・シネマ」では映画を見ながらディナーが食べられる。ビール会社の「ブルックリン・ブリュワリー」は見学コースを設けている。「ワイス」や「キング・アンド・グローブ」のようにスタイリッシュな新しいブティック・ホテルは、屋上ラウンジからの眺めが素晴らしい。マッカレン・パークでは、天気がよければ、音楽の生演奏を聴いたり、キックボールや野球、サッカー、ボッチェゲームなどを楽しんだりするのもよいだろう。

もう一度イーストリバー・フェリーに乗り、グリーンポイントで降りよう。ここはビール好きには天国である。ビアホールの「スプリッツェンハウス」はドイツ直輸入の大きな長テーブルと種類が豊富なドイツ・ビールが特徴である。グリーンポイントの雰囲気は「ポーランド風レストランと流行の最先端を行くバー」が合わさった魅力がある、とリードは言う。

次は地下鉄でパーク・スロープへ行こう。ここにある「もう1つの5番街」（マンハッタンの5番街と間違ってはいけない）には、ブランド・ショップやビンテージの古着店が並んでいる。ブルックリン植物園もここにある。土曜の朝、午前中は入園無料だ。「春、桜祭りの時期の植物園がとくに気に入っています。桜祭りのときは和太鼓の演奏や、日本の芝居や音楽がかかります」とリードは言う。

パーク・スロープでもう1つ、アウトドア派に必見なのは「プロスペクト・パーク」だ。この公園を設計したのは、マンハッタンのセントラル・パークをつくったフレデリック・ロー・オルムステッドとカルバート・ボークスである。「セントラル・パークよりも好きです。こちらのほうが活気にあふれています。サッカーをしてもよし、ピクニックでも、自転車に乗ってもよし。セントラル・パークよりもずっと活用されています。本当に楽しめますよ」とリードは語る。

次は、地下鉄で「ブルックリン音楽アカデミー」があるフォート・グリーンへ向かおう。150年の歴史を持つこの音楽アカデミーの考え方は大いに現代的である。アカデミーの「BAMローズ・シネマ」には、さまざまな国の映画を複数のスクリーンで上映する活気に満ちたプログラムがある。また、20ドルのチケットで現代劇やコンテンポラリー・ダンスが見られる新しい劇場や、世界中から訪れる音楽家のパフォーマンスを週末に生で聴けるカフェもある。数ブロック離れたところにあるのはブルックリンの最も新しいランドマーク「バークレイズ・センター」、バスケットボールとホッケーのチームの本拠地である。

ブルックリンを目いっぱい味わうためには、特に気候が温暖な時期であれば、ブルックリン橋を歩いて渡ろう。

最後に、ブルックリンを離れる前にぜひ行っておきたいのは、大西洋側の名所である。その1つであるコニーアイランドの木製遊歩道には、美味しいお店やニューヨーク水族館、あの非常に有名な「サイクロン」のように型破りな娯楽がある。サイクロンとは遊園地の「ルナ・パーク」にある1927年製のジェットコースターのことだ。コニーアイランドは、メジャーリーグ球団の「ニューヨーク・メッツ」傘下にあるマイナーリーグ・チーム「ブルックリン・サイクロンズ」の本拠地でもある。海辺で野球を見物できる場所が他のどこにあるだろうか。コニーアイランドから木製遊歩道が続いているブライトン・ビーチには、本格的なロシア風市場が立ち並んでいて夜も賑わいが続き、独特の雰囲気がある。夏の時期には「タチアナ・レストラン」へ行き遊歩道で食事をしてから、中に入ってラスベガス風のレビュー見物しよう。

近くのダンボ地区からは、マンハッタン橋のフレームの中にエンパイア・ステート・ビルが見える。ブルックリン・ブリッジ・パークに隣接するこの地区は食通や美術愛好家、「気持ちが若い人」を引き付ける

©DIBROVA/SHUTTERSTOCK.COM

ルート66 母なる道

「ルート66」は常に「どこかへ行く」ことを象徴してきた。こう言うのは作家のマイケル・ウォリスである。ウォリスはその著書『Route 66: The Mother Road 75th Anniversary Edition（ルート66：母なる道75周年記念版）』でこの伝説的に名高いこの国道を称賛している。1926年に開通したルート66は、「シカゴからセントルイスを経てロサンゼルスへ抜ける最短ルートで、最も眺めがよいナンバーワンの路線」として宣伝された。主要区間のいくつかが新たに開通した州間高速道路に取って代わられた1960年代初めまで、車を運転する米国人の間で人気の路線だった。

文学の名作―ジョン・スタインベックの『怒りの葡萄』や、ボビー・トゥループの1946年の曲『（Get Your Kicks on）Route 66』（邦題：ルート66）、1960年代前半のテレビ番組『ルート66』は、この国道の伝説を生み出すのに一役買ったが、そのおかげで、他では何の変哲もないガソリン・スタンドや、モーテル、飲食施設がルート66の沿道では魅力を放っていた。伝説は、ルート66が廃線になった1985年以降も生き続けた。現在、歴史あるルート66を愛する熱烈なファンが増えつつある。こうしたファンは、20世紀の米国の雰囲気を味わい沿道の名物を見るためにこの道を旅する。沿道の名物は玉石混交だが、ファンにとってはどちらも魅力にあふれている。

©TREKANDSHOOT/SHUTTERSTOCK.COM

オクラホマ州

オクラホマシティ

ベトナム風サンドイッチ店のサイゴン・バゲットは、1930年代に「ミルク・ボトル・グローサリー」だった建物で営業している。その屋根の上には巨大な牛乳瓶が置かれている。現在は、トロピカル・フルーツの果汁でつくった清涼飲料のほうが牛乳よりも人気がある。

カリフォルニア州

ロサンゼルス

7ブロックにわたって続く「ブロードウェイ劇場・商業地域」は、その最盛期、世界で最も映画館が密集していた地区である。映画館といっても普通の劇場ではなく壮麗な映画の殿堂で、その一部は、今でも、「ロサンゼルス歴史保存協会」が行っている散策ツアーで見学することができる。

カリフォルニア州

サン・バーナーディーノ

ウィグワム・モーテルは、ピクサー社の2006年のアニメ映画「カーズ」に登場した「コージー・コーン・モーテル」のモデルになった建物である。1949年にコンクリート製に改築されたティピには、それぞれに、ミニサイズの浴室と客室があり、荷馬車の車輪で作られたベッドの台が備え付けられている(訳注 ティピは動物の皮で作ったテントで、北米先住民の住居)。

カリフォルニア州

ビクタービル

クエンティン・タランティーノの2004年の映画『キル・ビルVol. 2ザ・ラブ・ストーリー』(原題:Kill Bill Vol. 2)で、ユマ・サーマンはこの町の「エマ・ジーンズ・ホーランド・バーガー・カフェ」に立ち寄り、そこから派手な復讐劇に乗り出した。「グリーン・スポット・モーテル」では、ハーマン・J・マンキーウィッツとジョン・ハウスマンが、1941年に映画界に革新をもたらした作品、オーソン・ウェルズの『市民ケーン』(原題:Citizen Kane)の脚本の原稿を書いた。「カリフォルニア・ルート66ミュージアム」には、柵柱にワインの瓶を突き刺した「カクタス・ガーデン」など、ルート66のフォークアートを最も良く表すものが展示されている。

アリゾナ州

ウィンズロー

この町の一角は、1970年代にヒットしたイーグルスの曲『テイク・イット・イージー』で有名になった。公園1カ所と銅像、2階建ての建物の壁がこの曲にささげられている。

テキサス州

アマリロ近郊

ちょっとした「立体アート」とも言えなくはない「キャデラック・ランチ」は、1949年から1963年にかけて生産されたビンテージ・カーが車の前部を下にして一列に地面に埋められていて、1974年に制作された。「フローティング・メサ」は目の錯覚を利用した幻影である。この幻影は、上が平らな丘の頂上に近い箇所を細い環状の青いプラスチックで完全に巻きつけることでつくり出される。頂上部の「薄い板状の層」が丘の上の空にわずかに浮いているように見えるのだ。

イリノイ州

スプリングフィールド

「コージー・ドッグ・ドライブ・イン」が言うには、棒に刺したフランクフルト・ソーセージに衣をつけて油で揚げたアメリカンドッグを初めて出したのはこの店だ。1946年のことである。現在も、アメリカンドッグは1ドル95セントでメニューに載っている。

ニューメキシコ州

アコマ・プエブロ

「天空都市」として知られるこのアメリカ先住民の集落は、ニューメキシコ州アルバカーキの西約80キロ、地上113メートルの砂岩の丘の上に位置している。1150年に建設されたアコマ・プエブロは、米国で最も長い期間、人が住み続けている集落の1つである。

Fold-out left page: clockwise from top left: ©Patrick Moore, ©Marchin Wichary, ©AP Images/James Quigg, ©Mark Turner, Courtesy of Los Angeles.
Fold-out right page: clockwise from top left: ©Ritchie Diesterheft, ©Ian McKellar, ©Patty Kuhn.

ラマダン

プリンストンのラマダン

ソハイブ・スルタン

私にとってラマダンは、食べることや飲むことに気を使う日常から解放される、ありがたい時期である。ラマダンのお陰で、私は自分の1日の時間の多くを内省や思索、熟考、そして神により近付くために費やすことができる。

しかし、特に私が教えている学生たちにとっては、ラマダンほど共同体意識を育ててくれるものはない。ここの学生たちは毎日集まって、一日の断食を解くイフタールという食事を一緒にとり、祈りを捧げる。ラマダンになると学生たちはそれを楽しみ、ラマダンが終わるとそれを懐かしがる。学生たちは「こうした気持ちを1年中持ち続けるにはどうしたらよいか」と質問する。だが、それは不可能に近い。というのも、ラマダンは特別なものだからだ。

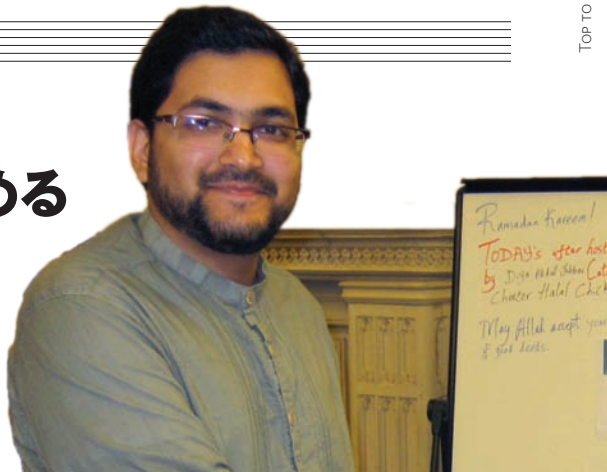
多くの学生が、プリンストンでの学究生活のプレッシャーを感じている中で、1カ月におよぶ断食という規律を忠実に守っているのを見ると、元気づけられる思いがする。聖なるラマダン月の間、プリンストンのイスラム教徒はこの伝統を守っているが、それはどこに住んでいるイスラム教徒でも同じことだ。しかし、ここの学生たちはラマダンからヒントを得て、例えば慈善といった時代を超えるイスラムの原則を現代社会における関心を反映する形で大切にする取り組みも始めている。

ラマダンの時は、人々の間に他の人が何を必要としているか考える気持ちが高まることから、私たちはさまざまな方法でそうしたニーズへの対応に試みている。例えば、私たちのコミュニティーでは「プロジェクト・ダウンタウン」という催しを毎年行っているが、これはイスラム教徒と

Top to Bottom: ©Brian Widdis; Courtesy Photo

ここ数年、私たちはイフタール版「アイアン・シェフ」ともいえる気軽に楽しめる料理コンテストを行ってきました

――ソハイブ・スルタン　プリンストン大学イスラム教聖職者



イスラム教徒以外の人々が集まってサンドイッチを作り、ホームレス保護施設に配るというものである。また、プリンストンの「イスラム学生協会」は、世界のどこかで起きている「必要なものが手に入らない危機」に対する連帯の気持ちを示すため、人々に1日の断食を呼び掛ける「ファースタソン」というイベントを毎年行っている。イベントの賛助者はお金を寄付し、参加者はその日の食費に相当する額を献金することによって、洪水、地震、その他の自然災害の被災者を支援するのである。

プリンストンのイスラム教徒が始めている革新的な試みがもう1つある。それは環境に配慮した慣行の促進を図るラマダンである。

過去3年間、私たちは「グリーン・ラマダン」に力を入れてきた。イフタール用の食器については、以前はできるだけ安いカップや皿を見つけて使っていた。しかし今は、プリンストン大学の食堂と提携して使い捨てでないカップや皿を借り、使用後洗って返すことにしている。こうすることで、埋め立て地へ行くごみがなくなる。

モスクでもこうした方法を取り入れるところが増えている。この動きは、環境保護意識の高い若者たちが中心になって進めている。

ラマダンは太陰暦に従っているため、太陽暦では1年のどの時期にも当たる可能性がある。したがって、プリンストンでのラマダンの計画づくりは、大学が開講中か休みかによって異なる。今年のラマダンは7月なので、学生の多くは休暇中ということになる。しかし、学内で仕事をしている大学院生や夏のインターンシップに参加している学生もいるため、私たちは彼らと非公式の話し合いをしている。また、ラマダンの時期がいつになるかに関係なく、私たちはラマダンの期間中にお祈りの会、コーランを読む会、夜明け前の断食入りの集まり、それにイフタールなどを主催している。

プリンストンのイスラム教徒コミュニティーと言っても、その構成メンバーは極めて多様なので、イフタールのメニューも多様なものを用意する。例えば、南アジアや中東の食べ物を出すこともあれば、イタリア料理の場合もある。イフタールは一般的には地元のレストランの仕出しで賄うが、学生たちが自分で料理したり、2〜3家族が合同で作ったりすることもある。この数年は、イフタール版「アイアン・シェフ」ともいえる気軽に楽しめる料理コンテストも開かれている。

ラマダンはイスラム教徒の学生の間に連帯感を生みだしていると思う。それは一体感であり帰属感である。プリンストンで学ぶイスラム教徒留学生は、たいへん温かい、心地良い環境を発見して驚くが、それはラマダンの時に限られたものではなく1年を通して同じであり、ホームシックを和らげてくれる。

Courtesy The Hunger Van

飢えた人たちのための強力な「無料給食用バン」登場

マッケンジー・バブ

米国のように宗教的に多様な国で暮らすイスラム教徒にとって、ラマダンは他の宗教を信ずる近隣の人々にイスラム教の信仰を行動で示す時間を提供してくれる。

ニュージャージー州のある町で地域のまとめ役を務めるザミール・ハッサンが、その地域の飢餓をなくすために何かしなければならないと強く感じたのは、2000年のラマダンのときのことだった。ラマダンの間は特に「自分がおなかいっぱいで床に就こうとしているのに、隣人がおなかをすかしているとしたら、それはイスラム教徒としての義務を果たしていないことになる」とハッサンは言う。

自分の子どもの学校で行われた無料給食所の催しを訪れたとき、ニュージャージーは豊かな州なのに、地域社会には非常に多くの飢えた人たちがいることを目の当たりにして驚いたと、ハッサンは言う。彼は友人たちと一緒に「飢餓と闘うイスラム教徒」というホームレスに食料を提供するNPOを立ち上げた。

コミュニティーとしての取り組み

「飢えに宗教はない」という理由から、ハッサンのグループは最初からキリスト教徒やユダヤ教徒、ヒンズー教徒の団体、それに事務所や学校、家族、個人とパートナーを組んで活動してきた。

この10年間に、「飢餓と闘うイスラム教徒」は3,000人を超えるボランティアを動員して米国とカナダの21都市で活動を行った。

グループの最近のプロジェクトには、飢えた人々に奉仕するための革新的な方法が取り入れられている。「無料給食所が食べ物を提供できるのはその近くにいる人たちだけでした」とハッサンは言う。では「駅の周辺や橋の下で当てもなく過ごしている人たちや、森の中のテントで暮らしている人たちについてはどうしたらよいか」

ハッサンと彼のグループは最近、ボランティアが小型トラックに食料を満載してホームレスがたむろしている場所を訪れる「ハンガー・バン」という、いわば移動無料給食所の活動をスタートさせた。

活動を実際に行うのは少人数のボランティアグループで、インターネットに登録し、指定された場所に調理用車両とともに200食分の材料を持って乗り付ける。そこで食材を2〜3時間かけて調理したあと、あたりをバンで走り回りながら食べ物を配布する。

「ハンガー・バン」による無料給食活動は現在、大ニュージャージー・ニューヨーク圏地域で行われているが、ハッサンは今後数カ月以内にボストンとワシントンでも同じような活動を始めたいと話している。

平和の種をまく

マッケンジー・バブ

紛争地域の若者を集めて人間関係を築き、
世界の平和と安全の促進を図ろうとしている米国の非営利団体がある。

パレスチナ系米国人高校生のアノールはこの夏、中東へ向かう。

中東へ行くのは初めてではないが、今度の旅はこれまでとは違うとアノールは言う。

これまでは大体、イスラエル国内にあるアラブ系の村、カフル・カセムに住むいとこたちと旧交を温めることにすべての時間を費やした。しかし今年は、いとこたちの一家を訪ねたあと、2週間にわたってアラブ人とイスラエル人の友人を訪ねる旅をする計画だ。

アノールとこれらの友人は、住む場所は遠く離れているが、メイン州の田園地帯で開催されたサマーキャンプで知り合って以来ずっと親しい関係にある。

米国最東端に位置するメイン州の西部丘陵地帯にある「シーズ・オブ・ピース(「平和の種」)国際キャンプ」で、アノールは中東出身の友だちと初めて顔を合わせた。キャンプは森の中の静かな湖の上にあった。オーティスフィールドという小さな町に近いこのキャンプ場は、世界各地から集まった若者たちがヨット上でロープを操作したり相互理解を深めたりするのに適した落ち着いた環境にある。

キャンプを運営するのは米国に本拠を置く非営利団体で、毎年夏、紛争地域から300人の学生を招き、伝統的な夏の野外活動と長時間の話し合いを結びつけたプログラムを実施している。

キャンプの参加者は少人数のグループに分かれ、紛争解決について討議する毎日90分間のミーティングに出席する。参加者は専門家の進行役の助けを借りながら、出身地域で自分たちを分断しているものが何かということを話し合う。

キャンプ地に着いた時、アノールは同年齢のイスラエル、エジプト、ヨルダン、米国、パレスチナからの参加者と中東地域における紛争について話し合いをすることに懐疑的な見方をしていた。

(上)綱引きゲームに参加するアノール
(下)お互いに誕生日を祝い合うキャンプ参加者

COURTESY SEEDS OF PEACE

「非常に長い3週間になるだろうと思っていました」と彼は言う。実際、グループの最初の話し合いは「大規模な怒鳴り合い」だったという。

「シーズ・オブ・ピース」理事長のレスリー・ルーウィンによれば、こうした話し合いは感情的になることもあるが、紛争に関して立場の異なるすべての当事者間の理解を促進するという。

「ある人を、またはあることをただ聞いたりテレビで知ったりしているだけであれば、憎しみを抱くのは非常に簡単です。けれども、個人的な関係と類似点を発見する機会があれば、状況は変わります」とルーウィンは言う。

アノールによれば、彼のグループの話し合いは、キャンプリーダーが学生たちに人の話をしっかりと聞くよう指導したため、より建設的になったという。また、最初は疑いの気持ちもあったが、キャンプでの経験によって、大人になったら世界中で平和と理解を推進する方法を自分で考えてみようと思ったとアノールは言う。

アノールは手始めに、「シーズ・オブ・ピース」キャンプ参加者の何人かとこの夏イスラエルで再会する。20年前に創設された同キャンプには、これまでに27カ国から5,000人が参加している。

キャンプ参加経験者が考えたこと

「人には他人に苦痛を与える能力があるが、同時に私たちはお互いの痛みを癒す窓でもある」
ー ジェニー(イスラエル)

「平和は政府の机の上や公式な会議の場で作りだされるものではない。人々の心から生まれるものだ」
ー シャイリ(インド)

「キャンプは、将来のリーダーになる可能性のある人たちで溢れている。彼らはまだ自己形成の時期にあるが、キャンプを通じて対立する相手の主張に接し、再び自分の属するコミュニティーに戻って行く」
ー カシム(パキスタン)

外国で学ぶ米国の若者

米国の学生の間で、国外留学に対する関心がかつてないほど高まっている。ミレニアル世代、つまり18歳から29歳の人たちが、サイバー空間やテレビで味わった世界を実際に経験してみたいという強い希望をもっているのである。

不可能だと思っていたことを楽しむマケナ・セージ

リオのサンバ学校？その通り！

LEFT TO RIGHT: COURTESY PHOTO; ©RICARDO MORAES/AP IMAGES

66%
がパスポートを所持

米国のカレッジや大学では、少なくとも1学期間の国外留学を学生に求めるところが増えている。多くのカレッジや大学は外国の学校と提携して学生交流プログラムを提供している。予算が限られている米国人の中には、安上がりな外国での4年制の学位コースに引かれる人もいる。

68%
が5年以内に少なくとも1回は国外旅行をすることを考えている

国外留学経験のある卒業生の圧倒的多数が、留学経験は世界の出来事に関する自分の見方に影響を与えていると考えている。スペインに1学期間の予定で留学しているジャスミン・シャープは、「ここでは、文化、言語、そして自分自身について毎週新しいことを学んでいます」と言う。

49%
が外国に住む人と連絡を取り合っている

アルゼンチンに留学したベラルス・デレオンは、「新しい文化や人々、考え方、そして新しい生活に偏見を持たずに接するようになった」と言う。

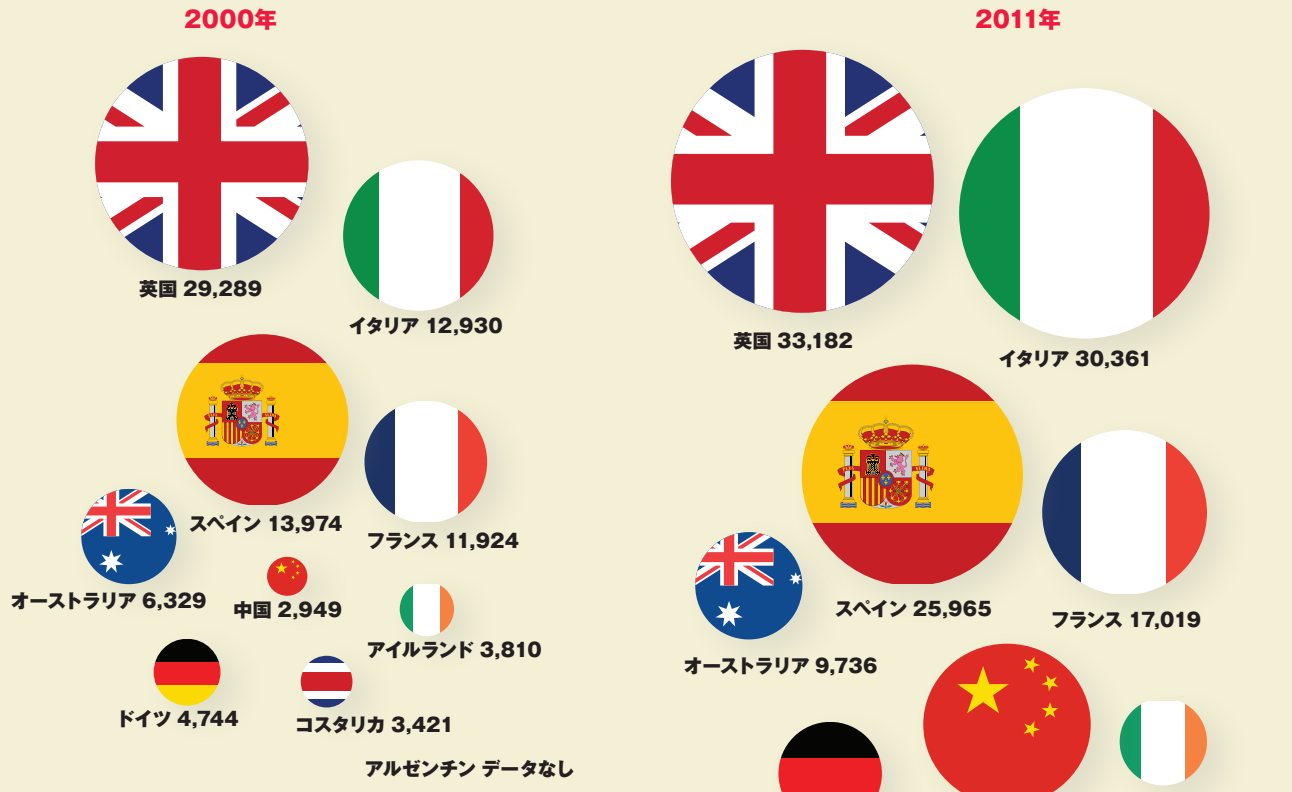
33%
が人生のいずれかの時点において外国で働くことを希望している

アルゼンチンに留学したマケナ・セージ（上の写真）は、国外留学を経験したお陰で「人生や、何が可能で何が可能でないかについての見方」が変わったと自分のブログで述べている。

SOURCE: ZOGBY INTERNATIONAL

国境なき米国人

2000 ～ 2011年に、国外留学する若い米国人学生の数はほぼ倍増した。米国人留学生の受け入れ数が最も急激に増えたのは中国で、4倍の伸びを記録した。



留学先として中国を選ぶ米国人学生が増えた理由

「100K Strong Initiative」については携帯電話で右のQRコードをスキャンするか、http://goo.gl/m3eERを見てください。

SOURCE: INSTITUTE OF INTERNATIONAL EDUCATION, 2012 OPEN DOORS REPORT

©XIVER/SHUTTERSTOCK.COM

ある世論調査専門家の予測

世論調査専門家のジョン・ゾグビーは、1979 ～ 1994年に生まれた米国人を「第1次グローバル世代」と特定している。「彼らは他の世代にはない、地球全体を意識する感性を持っている」とゾグビーは言う。「彼らは、その熱意の一部を長期の不況や公的債務および個人的負債によって抑えられているが、楽観的な考え方を持ち続けている」以下はこの世代についてのゾグビーの予測である。

1 これらの「グローバル遊牧民」は、経験や一時的な仕事、新しい人々との結びつきを求めて、一緒に群れをなして旅をするだろう。彼らは「非公式の平和部隊」になる。

2 企業や政府は、これまで中高年の事務職員に技術のことを教える際にこの世代の人々に頼ってきたが、それとほぼ同じように、今後は彼らの問題解決能力を当てにすることになるだろう。彼らにはお役所的な意思決定の経験のないことが特に重要視されるだろう。彼らはネットワークや少人数のグループを通じて問題の解決を図ることがとりわけ上手である。

3 彼らは仕事から仕事へと渡り歩くが、相互の友情関係は遠く離れていても続き、人生における堅固な支えとなるだろう。

4 彼らの子孫はさまざまな民族の血が入った「赤ん坊」、つまり、しっかりと毛布にくるまれいつでも長旅に出る準備ができていた、アメリカ先住民の民間伝承にある「パプース」と呼ばれる赤ん坊のようなものであり、多言語を使いこなし、住む場所に関わりなく自宅で教育を受けることになるだろう。

5 「第1次グローバル世代」は自分たちの部族—国境を越える共通の関心を持つ人々のコミュニティー—を国家と同じように重視する。彼らはドメイン名システムでは米国人だが、「国境なき米国人」ということになるだろう。

MOOCって何？

MOOCとは大規模公開オンライン講座（Massive Open Online Courses）のことで、教育を教室外へ持ち出して、インターネットに接続可能な人なら誰でも無料で一流大学の授業を利用できるようにするもの。

MOOCはまだ始まったばかりだが、大きな可能性がある。MOOCは教育の将来の姿を示していると言う人もいる。しかし、答えの出ていない問題もある。例えば、誰が10万人もの受講生の答案を採点するのか。また、MOOCを通じて履修した講義には、キャンパスで受けた講義と同等の単位が与えられるのか。

バッジが学位にとって代わる？

就職希望者の資格を評価するに当たって、雇用者側はこれまで伝統的に大学の学位に注目してきた。それがMOOCによって変わるかもしれない。

米国教育協議会は、一流大学が提供するいくつかの特定の無料オンライン講座について検討を進めることにしており、その結果として、他の学校がその講座に対する単位を与えるよう提言する可能性がある。

MOOC提供者の中には、学業成績が優秀で仕事への適性のあると思われる学生に関する情報を雇用者側に売り、それによって収益をあげているものもある。

MOOC提供最大手のコーセラ（Coursera）は、アンティオーク大学と公開講座の使用を認める契約を結び、同大学は学士号取得課程の一部として単位を与える講座をMOOC版で提供する。

From Top: ©Bearman/Shutterstock.com; ©carroteater/Shutterstock.com

知っておくと役に立つ3つのMOOC

1 スタンフォード大学でコンピューターサイエンスの教授を務めるセバスチャン・スランとグーグル社研究本部長のピーター・ノーヴィグは、ユーダシティ（Udacity）を通じて、人工知能に関する評判の良い講座を提供している。

2 バイオエレクトリシティ（Bioelectricity）　コーセラを通じて提供される「定量的アプローチ」に関する講座。デューク大学初のMOOCで、これを履修した学生の数は同大学在籍者数の10倍以上に達した。

3 CS50x　コンピューターサイエンスへの入門講座でedXが提供。この講座の伝統的なキャンパス版はハーバード大学で最大のコースになっている。

数で見るMOOC

190

16万人が参加するスタンフォード大学の人工知能に関する無料オンライン講座の受講生がいる国の数

$895,000

大学間MOOC単位互換の実行可能性を検証するため、ビル＆メリンダ・ゲイツ財団が米国教育協議会に提供した資金の額

Courtesy Tabarrok and Vaidhyanathan

正しいのは誰？

MOOCを受講するのかしないのか―それが問題だ。

	賛成 ジョージメイソン大学教授 アレックス・タバロック	反対 バージニア大学教授 シバ・バイダヤナサン
	MOOCについて、これまで存在しなかった学習機会を生み出すものとして、その将来に期待を寄せる	オンライン学習には大きな可能性があることを認めるが、その可能性を実現するうえでMOOCは実際には一歩後退だと言う
MOOCと伝統的な教室での授業の比較について	実際のところ、大学生の3分の1以上は25歳以上、半分近くはパートタイム就学で、ほとんどが働いている。大学生の約4分の1は自分の子どもがいる。伝統的な大学経験は今日の学生のニーズには合わない。	実際の大学で学ぶ講座とMOOCの違いは、ゴルフをするのと見るのとの違いのようなものだ。どちらも面白くて、楽しい場合がある。どちらも退屈で、もどかしい思いをすることがある。だからと言って、それが同じだとは言えない。
MOOCが教育の普及拡大を促進する力について	オフラインの授業では、すべての顧客は供給者が生産した瞬間にその生産物を消費する必要がある。MOOCは1日24時間、1週7日間、1年365日ずっと開かれていて、オンデマンドで学習ができる。	MOOCに熱心な人々は、受講登録者数の増加分については話したがるが、減少分については触れない。最近大きな注目を集めた試みを見ても、カタツムリ郵便時代の古典的（そして退屈）な通信教育コースを上回るものは一つもない。
MOOCはどんな学習スタイルにも適しているか	テストに適応性があるため、より迅速に本当の能力に照準を合わせることが可能になる。コンピューター適応型学習は、すべての学生がオンデマンドで自分の個人教授を持つようなもの。1人の教授が500人、あるいは50人程度の学生を教えるのと比べても、ずっと個人向けの授業になる。驚いたことに、コンピューター利用によって、学習の画一化やロボット化の度合いは減る。	これまでに「成功」とされたMOOCは、数学や計算を基本としたもの、職業教育に関するものが多く、どちらかと言えば、調査や探査に関するもの、アイディアに基づくもの、実験室を使って行うものは少ない。私たちがしかねない最悪のことは、単にビル・ゲイツのような金持ちの一部がMOOCこそ未来に向けての鍵だと考えているからという理由で、すべての学問分野が一つの様式に従うよう強制することだ。
	Cato Unboundから（2012年11月12日）	The Chronicle of Higher Educationのイノベーションに関するブログの “What's the Matter with MOOCs?”（「MOOCのどこがいけないか」）から（2012年7月6日）

©Shutterstock.com

マイクロソフト社前会長でハーバード大学中退のビル・ゲイツは、MOOCはあなたがどこの学校へ行ったかではなく、何を知っているかを雇用者が測定するのに役立つ可能性があると考えている。

「自分の知識を証明しようとする時、その知識をどうやって得たかということを切り離して考えることができれば理想的だ」

――ビル・ゲイツ

遺伝子情報に基づいてクラシック音楽を作曲するリエ・タカハシは、彼女の作品が医学生への大きな助けになると語る

COURTESY TAKAHASHI

Listen!

遺伝子音楽を聴くには、QRコードをスキャンするか、http://goo.gl/zzVgf を見てください。

これまで聞いたこともないDNAの話

遺伝子情報を音楽に変えるカリフォルニアの科学者たち

マイケル・ギャラント

ロサンゼルス出身の若い科学者リエ・タカハシは、人類遺伝学の隠された秘密を誰でもどこでも理解し始めるのに役立つ思いもよらない新しいツールを発見した。iPodである。

「カリフォルニア大学ロサンゼルス校の3年生のとき、ジェフリー・H・ミラー教授が担当する『科学と社会』というセミナーを受講しました」と、クラシックピアノを20年以上も学んでいるタカハシは言う。タカハシによると、その年、2005年だったが、同教授が出した課題の一つは「科学の世界でよく使う専門用語を分解して、誰でも理解できる分かりやすいものにする方法を見つける」というものだった。タカハシと教授は彼女の音学と科学への情熱を踏まえて、そうした関心の結びつきについて追求するのがよいと判断した。「音楽には言葉の壁がありません」と彼女は言う。

ミラーによると、アミノ酸配列、すなわち、細胞が筋肉などのような重要なたんぱく質を構築するのを手助けする顕微鏡的構造体を音楽に置き換えて表現する試みは、彼がタカハシと共同研究を始めるずっと前から行われていたが、大きな成果は得られていなかった。「単純に考えれば、20種類のアミノ酸それぞれに異なる音符を割り当て、あるアミノ酸が現れるたびに、それに対応する音符を聞くことが出発点だ」とミラーは言う。問題は、アミノ酸は隣にある別のアミノ酸と関係なく、いろいろな種類のものが現れることである。その結果、あちこちを支離滅裂に飛び跳ねる音楽になる。「未知の音楽だ」とミラーは笑いながら言う。

遺伝学を利用して得られる音楽を、聞いて楽しいものにするため、タカハシはアミノ酸を個別の音符ではなくまとまった和音を出すように並べるコンピュータープログラムを開発した。また、類似のアミノ酸を一対の組み合わせにし、それぞれが同じ和音の逆の変化を起こさせるようにした。「リエのプログラムは非常に心地良い音楽を生み出しました」とミラーは言う。

しかし、遺伝子を音楽に置き換えて表現するタカハシのプログラム――制作者であるタカハシ自身はそれをGene2Musicと呼んでいるが――は、聞いて楽しい音楽を生み出したこと以外にも、説得力のある実用の可能性を秘めている。タカハシはこう語る。「パターンというものは見るよりも聞く方が容易なことがあります。例えば、ハンチントン病は特定のアミノ酸の反復によって引き起こされますが、もしハンチントン病のタンパク質の音に耳を傾ければ、音楽のことは何も知らなくても、同じパターンが何度も繰り返していることが耳で分かり、何か異常なことが発生していることが理解できます」UCLA医学部教授の1人は、何年か経った今も、授業でその音を学生に引き続き聞かせていると彼女は言う。

**音楽を通じて
アミノ酸の研究を
続けることは
科学的発見に
つながると
タカハシは
信じている。**

Gene2Musicは国際的な注目を集め、米国のほかメキシコでも教育用ツールとして使われている。このテーマについてタカハシとミラーは科学論文を発表し、BBCでも取り上げられた。

タカハシはさらなる前進を目指しており、Gene2Musicで明らかになったことが、将来の医師を教育するための単なるツールを超えたものになることを願っている。「この音楽を私は自分のコンピューターで作曲しましたが、生のオーケストラで演奏されたことはありません」とタカハシは言う。「私はこの音楽の基本原理を使って、電子音楽やその他のジャンルの音楽を追求したいと思っています。そんな風にして、創造力を生かして表現できる情報やデータはたくさんあります」

音楽を通じてアミノ酸の研究を続けることは科学的発見につながるとタカハシは信じている。アミノ酸鎖のうち実際にタンパク質を生成するものはほんの一部に限られており、同じ配列のほかの部分はタンパク質の生産が始まるとそれをコントロールする働きをすると、タカハシは言う。「このタイミングを予測するためのアルゴリズムはたくさんありますが、完全なものはありません。配列を耳で聞くことができれば、これまで私たちが見逃していたパターンを発見するのに役立つでしょう」

これまで一度も見たことがないようなDNA

「私は、DNAがどれほど重要かということ、また、その魔法のような構造が、私たちが何者なのかをどれほどよく示しているかということに興味をそそられました。非常に特殊な言語の、あの小さな、ちっぽけなxの中には、あなたが何者なのか、そしてどのように生きていくかという物語が詰まっているのです」

シアトル在住の学生、カタリーナ・カウンティスが自分の描いたDNAの絵（上）ついて述べた言葉

COURTESY COUNTISS

©EUGENE IVANOV/SHUTTERSTOCK.COM

これまで一度も読んだことがないようなDNA

スーザン・ミリガン

ウィリアム・シェークスピアは、自分のDNAの中に偉大な文学を持っていたと言えるかもしれない。そして、米国内外の科学者による画期的な研究により、DNAはシェークスピアのソネット（14行詩）のすべてを保存するために使われている。

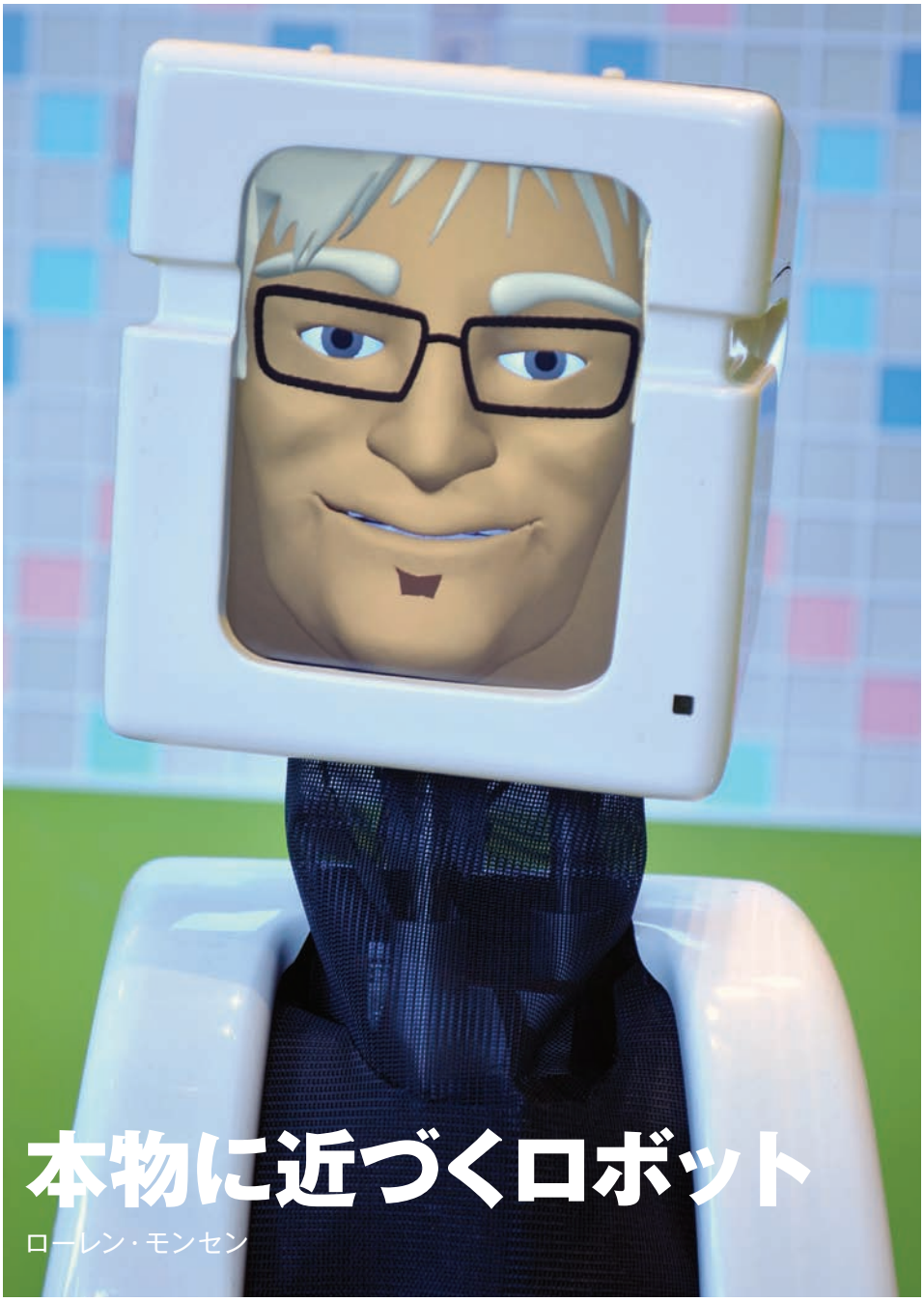
イングランドにある欧州バイオインフォマティックス研究所の研究者たちは、パブでおしゃべりしていたときに思い付いたアイディアを発展させ、シェークスピアの詩を試験管の底のわずかなスペースに保存した。

「1つの図書館全体をキーホルダーにとりつけることもできる」というのはハーバード大学の遺伝学者ジョージ・チャーチ博士である。同博士は、同僚のスリラム・コスリと共同でDNA保存に関する論文を9月に執筆した。

欧州バイオインフォマティックス研究所のニック・ゴールドマンとユアン・バーニーはシェークスピアのソネットのほか、科学論文とマーチン・ルーサー・キングの「私には夢がある」演説を保存した。2人はエラーフリーのソフトウェアを使い、情報が何千年にもわたって安全に保存されるようにしたのである。

ハードドライブでいいのに、なぜそれを使わないのか。「DNAは驚くほど安定している」とゴールドマンは言う。「DNAは地球上のすべての生命の基礎ですから、技術的に進んだ人類が近くにいる限り、その情報を読むことができます。ハードディスクドライブやジップドライブは2〜3年も経てばその機能が信頼できなくなります」

ハーバード大学のチャーチは自分のジップドライブを今すぐに投げ捨てようとしているわけではない。合成DNA技術にはお金がかかるからだ。今のところ、私たちの日常生活のすべてのビデオを保存するためにそれを使おうとは考えていないと彼は言う。



本物に近づくロボット

ローレン・モンセン

サイエンス・フィクションでは、ロボットは人間と見分けがつかない場合もあるが、産業や軍隊、警察で使われるロボットは最近まで、機械のように見え、極めて特殊で機械的な作業をこなすように設計されていた。

ピッツバーグのカーネギーメロン大学で、人格を持ったロボットの作成に取り組んでいる研究者に登場してもらおう。

カーネギーメロン大学のロボット工学研究プログラムは、U.S.ニューズ・アンド・ワールド・レポート誌で第1位にランクされている。米国国立科学財団によると、米国はロボット工学の分野で日本および欧州連合とともに世界をリードしている。

世界で最初に開発された話をするロボットのうち、バレリー、タンク、アシーナ、ビクターは、同大学の演劇学部とロボット工学研究所による学際的なプロジェクトから生まれた。アン・マンデル教授が演劇専攻の学生と協力してそれぞれのロボットの人格を作り、リード・シモンズ教授はロボットが人間と交流できるようにするソフトウェアの開発に取り組むロボット工学専攻の学生を指導している。

このプロジェクトは、技術が人々の日々の生活にどのような影響を与えるかという問題をめぐる話し合いの中から生まれた。両教授は芸術と技術の結合の可能性に興味をそそられ、与えられた作業をしながら会話をする「社会的ロボット」のアイディアを思いついた。面白そうなロボットだが、その目的は真面目なものだ。これらのロボットはさまざまな指示や天気予報などの情報を提供するが、普通とは違う面白い個性を持っているため、人々をロボットと長い時間つきあっても良いという気持ちにさせる。そして、それは大きな前進である。ロボットは、医療分野でますます大きな役割(例えば、高齢者が薬の服用する際の手助け)を果たすようになっており、人々に親しみやすいものになることが重要になる。

学生たちの最初のロボット共同制作作業から生まれたのが、「受付ロボット」のバレリーで、現在は教室でのデモ用に使われている。当初はコンピューターサイエンス学部の建物に配置され、訪問者や電話をかけてきた人の質問に応える一方で、陰口(自分の恋愛を母親が管理しようとしていると不満を言うなど)もたたいていた。

バレリーの後継者がタンクで、2005年に「受付ロボット」の仕事を引き継いだ。マンデルによれば、「その結果、バレリーは歌手への道を進むことができるようになった」という。マンデルは、教え子たちが作ったロボットが好きなようだ。

いかつい退役軍人として考案されたタンクは、学部の「受付ロボット」をバレリーよりも長い間務めている(いずれは彼に代わるミランダの制作が現在行われているが)。タンクには独特の個性があり、例えば、訪問者が彼に対して無作法だと、不機嫌になる。

学生たちは、これらのロボットによって語られる話を一続きの物語として発展させた。訪問者がキーボードに質問を打ち込むと、ロボットはコンピューターで生成された言葉で対応する。「ロボットとやりとりを続けると、ロボットが語る話は進化していきます」とマンデルは言う。

ビクターには[盤を使ってするボードゲームの]スクラブルの奨学金で大学に通っている若い天才の面影がある。人間を相手にプレーするために設計されているビクターは、気まぐれな十代の若者のような話し方をする。学生ラウンジに置かれ、人間よりもロボットのほうが得意なことを引き合いに出して、学生をばかにする。

これらのロボットは、シモンズ教授が考案したソフトウェアのおかげで、顔に表情があり、頭を傾けたり目を動かしたりする。また、人がどこにいるかを感知する運動センサーがついている。

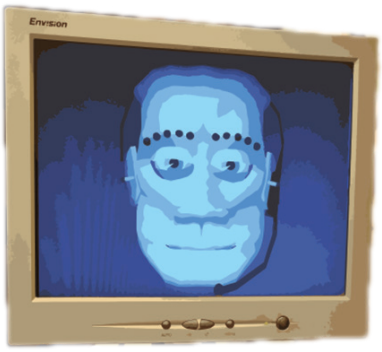
この共同プロジェクトの参加者は、これまでに制作した代々のロボットから多くのことを学んでおり、新しく開発されたロボットほど自然なやりとりをする。ビクターには「情緒反応スペクトル」があり、「スクラブルゲームの過程で何か物事が起こると適切に反応する」とマンデルは言う。社交的なロボットは、現実の世界でも応用が可能だが、マンデルにとっては、新しい形式でストーリーを語る方法だという。

©Louis Stein

上から下へ
バレリー、ビクター、タンク

歌っているのが楽しい。他の人はみなそれぞれを自動削除していなくなる。

私のことを、肩に木片のチップを乗せていてけんか腰だと言う人がいる。実際は、私の肩に集積回路のチップが入っている。



コンピューターには感情もある。

Watch!

ロボットのバレリーを見るには、このQRコードをスキャンするか、http://goo.gl/UeRQX を見てください。

Top: ©Carnegie Mellon University; Center and Bottom: ©Louis Stein

ロボットなんかこわくない

カーネギーメロン大学ロボット工学研究所長、マシュー・メイソンとのインタビュー

質問　サイエンス・フィクションを読むと、ロボットが人間に匹敵する知能を持つようになると、反乱を起こすこともあるのでないかと考えてしまいます。ロボットが私たちを捕まえに来る可能性はあるのでしょうか。

マシュー・メイソン　近い将来においてはその可能性はありませんが、500年後にはそうなるかもしれません。私たちの人工知能研究とロボット開発が大成功を収め、そうした心配が現実のものになればいいなと思っています(笑い)。

質問　今日のロボットができること、できないことは？

メイソン　私たちが容易にできることはすべてロボットには難しく、私たちに難しいことはロボットにとってはすべて簡単です。チェスの難問に対する知的な挑戦では、人工知能が見事に力を発揮し、コンピューターが人間のチェス競技者に勝っています。けれども、もしロボットがチェスの駒を動かすことまで望むとすれば、それは骨が折れます。また、人間とロボットが不確定要素にどう対処するかを考えてみてください。人間は自分の感覚だけでなく常識の物理学を利用します。障害物に遭遇すると、素早く分析をして問題を解決します。ロボットはそうした障害物に対処するのに苦労します。

質問　ロボットをもっと融通のきくものにするうえで決定的に重要な課題がありますか？

メイソン　一般に研究者はロボット工学を前進させる、さまざまな異なる仕組みや構造、材料を調べています。研究者は制御装置、知覚、知能、機械学習などを研究します。私はロボットの運動計画と制御に関わる操縦の分野の研究をしており、これにはロボットの「手」の使い方の問題も含まれます。今のロボットには、トングに似た簡単なつかみ道具が付いています。人間の手に近いもっと優れた「手」の設計に取り組んでいる人もいますが、それに成功したとしても、問題の解決にはならないと思います。2本のはしを手に持った人間のほうが、今までにない状況に対処しようとしているロボットよりも、少なくとも近い将来においては、依然としてはるかに能力が高いでしょう。

質問　携帯電話は私たちの生活を変えつつあります。ロボットはもっと根本的な影響を私たちに与えるのでしょうか。

メイソン　ロボットは私たちの生活を変えましたが、私たちの心を変えたわけではありません。何か自動装置を見ると、私たちはロボットと呼ぶには小さすぎるとよく考えます。私はロボットの教育における応用にワクワクしています。カーネギーメロン大学には、個人教師の役割を果たす自動装置があり、子どもたちが文章を読むのを聞き、読み間違いを直すとともに、指導や激励もします。宇宙探査も変わりつつあります。火星を探査した米航空宇宙局のローバーには私たちの運動計画ソフトウェアが使われました。無人自動車や医療ロボット、私たちの周辺および体内のすべての場所を観察し理性的に注意を払うことのできる技術は、私たちの生活に驚くべき変化をもたらすでしょう。

質問　カーネギーメロンには「ロボットの殿堂」があります。殿堂入りをするロボットはロボットが決めるのですか。

メイソン　それでは審査員の楽しみがなくなってしまいます。…それに、私としてはちょっとこわい感じがします（笑い）。

マシュー・メイソン

ゲームに参加する

アンジェイ・ズワニエツキ

**100万ドルのアイディア？
多くのゲーム関連企業の成長を後押ししているクラウドファンディングは、あなたの小さなビジネスや芸術創造活動のための資金調達手段になる可能性がある。**

ビジネスを始めたり芸術的なアイディアを売り出したりするための資金の工面の仕方が変わりつつある。銀行ローンや通常の投資家が、少額の出資をする互いに顔を知らないインターネット投資家によってわきへ押しやられているのだ。

小規模の投資家や資金提供者からオンラインで資金を集めるこのやり方は「クラウドファンディング」と呼ばれ、特に欧米で人気が高まっている。業界の調査団体の1つであるCloudsourcing.orgによれば、こうした資金面での支援の売り込みを行うウェブサイトは2012年には約540あり、そのほとんどが米国、カナダ、ヨーロッパ諸国のサイトだという。

こうした動きにより、準備資金がゼロまたはわずかしかない駆け出しの芸術家やデザイナー、起業家がプロジェクトを進めるための資金を、多くの場合ささやかな将来の見返りと引き換えに、インターネット利用者から調達することができるようになった（見返りには、事前注文の製品、割引券、Tシャツ、夕食などのほか、創設者との電話での会話といったものまである）。

米国でクラウドファンディングのサービスを展開する「キックスターター・コム（Kickstarter.com）」が3人のパートナーによって創設されたとき、その支援者は彼らの友人たちだけだった。最初のうちの成功例は小規模なもので、芸術企画2件がそれぞれ100ドルと37ドルの資金提供を受けただけだった。現在では、クラウドファンディングは28億ドル規模のグローバル産業になっており、100万ドルの資金提供を要請し、実際に獲得しているプロジェクト起案者も多い。

早めに目標を達成

ユニークな音楽プレーヤー「オリーブ・ワン」は、締め切り予定2カ月前に資金調達目標額を超えた。

Courtesy Olive Media, Inc.

トラッシュ・ダンス
ドキュメンタリー作品で、「キックスターター」を通じて資金調達し2013年までに公開された86本の映画のうちの1本

COURTESY TRASH DANCE

クリックして投資

クラウドファンディングを支持する人々は、この資金調達モデルは投資プロセスを民主化するもので、何千人もの潜在的なサービス利用者や製品購入者、芸術愛好家が自分自身で面白いと思うアイディアに投資することができるようになると主張する。これらの投資家が賭けるお金はそのプロジェクトに対する信任票だというわけである。

大衆には「良いアイディアを識別し認証する驚異的な能力がある」と、クラウドファンディングのコンサルティング会社である「マソリューション」の最高経営責任者、カール・エスポスティは2012年5月、フォーブス誌に語っている。

クラウドファンディングで調達した資金によるプロジェクトは、大衆の厳しい監視の目にさらされながら進められる。ほとんどの場合は成功する。ペンシルベニア大学教授のイーサン・モリックが行った2012年の調査によると、「キックスターター」で資金調達の目標額を達成したプロジェクトの96%以上が期待された結果を出した。しかし、この調査はまた、比較的容易に資金調達ができた場合は、それが時期尚早のプロジェクトの立ち上げを助長する可能性があることも示唆している。すなわち、「キックスターター」を通じて資金調達に成功したプロジェクトのうち、予定した時期に結果を出したのはわずか25%にとどまっている。

もう一つの懸念は、いかさま師が実際には進めるつもりのないプロジェクトに対する資金を集める可能性があるということだが、この懸念については杞憂であることが証明された。「クラウドファンディングの透明性とソーシャル・ネットワーキング力学がうまく働いて、詐欺行為をほぼゼロに近い状態に保っている」とThe Crowdfunding Revolution(「クラウドファンディング革命」)の共著者ケビン・ロートンは話している。

ロートンによれば、将来はプラットフォームを超えたイノベーションにより、全体的なクラウドファンディングのエコシステムが出現するという。また、政府の補助金や慈善活動はクラウドファンディングを通じての配分に変わっていくという。

グローバル化するクラウドファンディング

米国では、掛け金が高くなりつつある。2012年に連邦議会で成立した新規事業活性化法(JOBS Act)では、起業家は認定クラウドファンディング・プラットフォームを通じて一般大衆に最高100万ドル相当までの株式を売ることができる。同法は米国の中小企業の成長を促進するが、同時に、起業家やウェブサイト管理者に投資家に対してより大きな説明責任を果たすよう迫っている。

新興成長市場では、クラウドファンディング革命は始まったばかりである。コンサルティング会社の「クラウドファンド・キャピタル・アドバイザーズ」によれば、こうした形態の投資はイスラム金融の原則と一致するため、イスラム諸国では大きな可能性があるという。アジア、中南米、中東地域には、クラウドファンディング関連のプラットフォームがすでに立ち上げられている国や間もなく立ち上げ予定の国がいくつかある。

クラウドファンディングによる資金調達トップ5(2012年)

1. ペブル(スマートウォッチ)
1,020万ドル

2. ウーヤー(モバイルゲームコンソール)
850万ドル

3. スター・シチズン(コンピューターゲーム)
700万ドル

4. プロジェクト・エタニティ(ビデオゲーム)
400万ドル

5. アマンダ・パーマー&ザ・グランド・セフト・オーケストラの音楽アルバム
120万ドル

SOURCE: TRIPLEPUNDIT.COM

私たちはなぜ退席したか

テリー・クレイマーはUCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)で教鞭をとっている。元大使で、激しい議論が交わされた2012年12月のドバイでの国際会議では米国代表団の団長を務めた。

©D.A. Peterson

テリー・クレイマー

ドバイの世界国際電気通信会議では電気通信をめぐる話し合いに重点が置かれることになっていた。米国代表団は発展途上国におけるブロードバンドインターネット接続に焦点を合わせたいと考えていた。ところが実際にどうなったかと言えば、インターネット規制に関する憂慮すべき提案がいくつか入り込んできた。

ほとんどのケースで、個々の問題点に関する会議出席者の意見は一致した。課題は「どうやってその問題を解決するか」だった。出席者の一部は「政府と一緒」に解決を図るべきだと述べた。例えば、スパムは頼んでもいないのに勝手に送り付けられた未承諾のコンテンツである。何を未承諾のコンテンツとするか、そして何をブロックできるかについて誰かが決めなければならない。米国の考え方は、政府がそれをするのは適切ではないということである。というのは、それはコンテンツの検閲への道を開くからだ。こうした検閲は民主主義や言論の自由、政治的見解を共有する人々に向けられる可能性がある。

私たちは「それは支持できない」とだけ言い、条約に調印しなかった。これについては、欧州、日本、豪州、ニュージーランド、カナダ、ペルー、コロンビア、コスタリカ、インドも同じ考え方だった。インターネットから恩恵を受ける市民や消費者、そして—インターネット・ガバナンス・フォーラムのような—団体を真に代表するグループのほうがインターネット規制をめぐる将来の問題を検討するのによりふさわしい、と私たちは考えている。

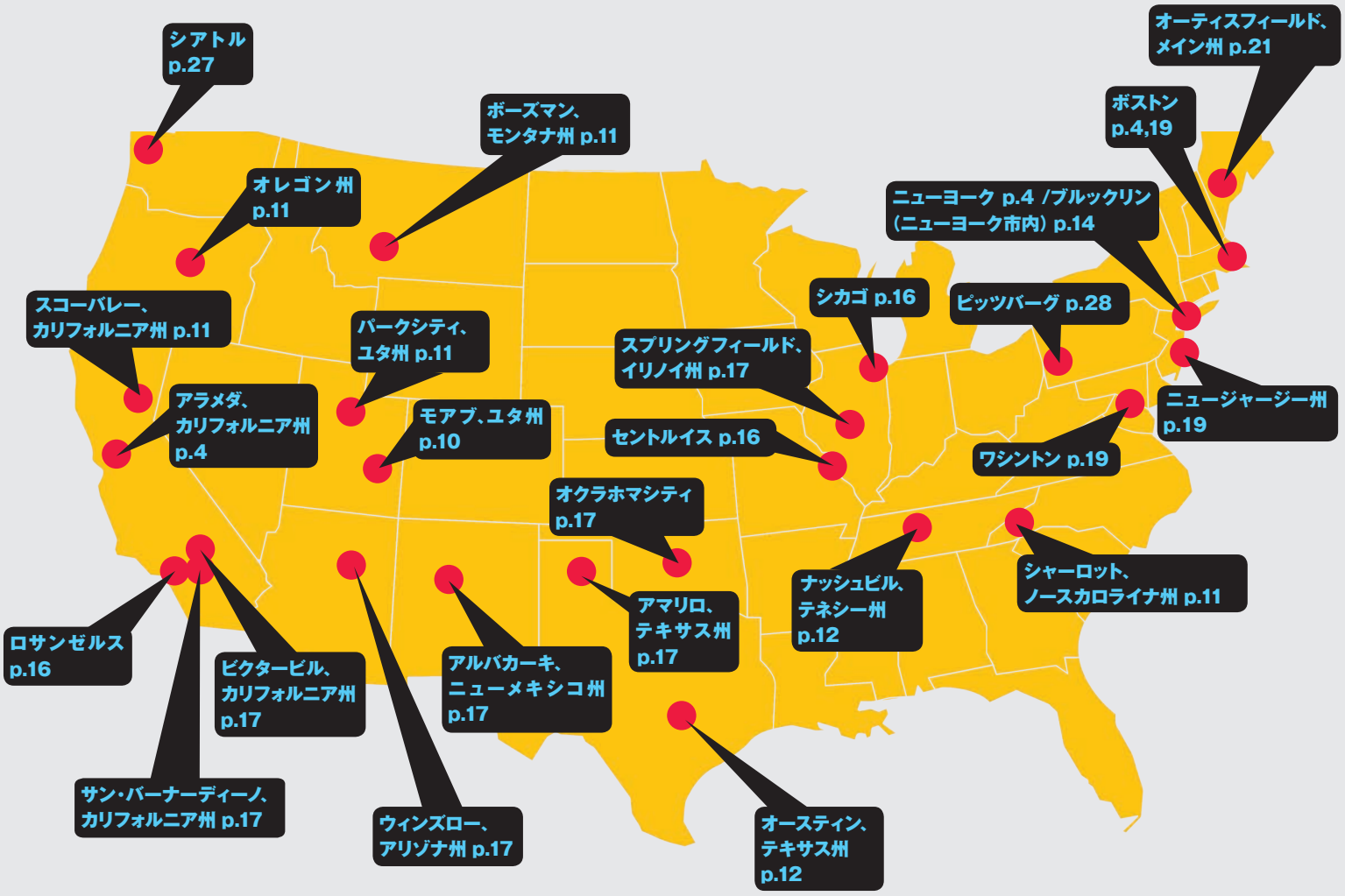
本号24ページで取り上げられている大規模公開オンライン講座(MOOC)は、政府による行き過ぎた規制を防ぐことがいかに重要かを示す好例である。

会議で出されたMOOCに直接的な悪影響を与える可能性のある提案は、「送信する側が支払う」料金体系を支持するものであった。「送信する側が支払う」方式では、無料のコンテンツを開発しオンラインで配信する大学側が高い料金を支払うことになる。そうなれば、大学側はコンテンツの送信をやめるか課金モデルに移行することになり、その結果、コンテンツが無料でなくなるのではないかと私たちは心配している。

インターネットは非常に多くの機会を創り出してきたが、それはインターネットが自由で開かれたものであるからだ。このインターネットの持つ開放性のお陰で、大学はコースを共有し、起業家はユニークなコンテンツとアプリケーションを開発することが可能になる。こうした環境を推進するため、インターネットに関する規制については、ごくごく軽いものにしておく必要がある。

点を結ぶ

この地図上の点は本号で取り上げた地域を示しています。
ページ番号を参考に、地図上の点を結んで米国での生活の
より大きな全体像を造り上げてください。



Map adapted from ©Hamik/shutterstock.com

米国大使館　広報・文化交流部

アメリカンセンターJapan
アメリカンセンター・レファレンス資料室

札幌アメリカンセンター・レファレンス資料室
〒064-0821　札幌市中央区北1条西28丁目　米国総領事館内
Tel: 011-641-3444

アメリカンセンターJapan
〒107-0052　東京都港区赤坂1-1-14　NOF溜池ビル8階
Tel: 03-5545-7431

関西アメリカンセンター・レファレンス資料室
〒530-8543　大阪市北区西天満2-11-5　米国総領事館ビル7階
Tel: 06-6315-5970

福岡アメリカン・センター・レファレンス資料室
〒810-0001　福岡市中央区天神2-2-67　ソラリア・パークサイドビル8階
Tel: 092-733-0246

在沖縄米国総領事館・広報文化課レファレンス資料室
〒901-2104　沖縄県浦添市当山2-1-1
お問い合わせはオンライン質問箱をご利用ください
http://go.usa.gov/TCsP

米国大使館のウェブサイト

米国大使館　http://japanese.japan.usembassy.gov/

アメリカンセンターJapan　http://AmericanCenterJapan.com/

レファレンス資料室　http://usinfo.jp/